
論 文

看護学生の志望動機と実習達成感、 看護職の職業的アイデンティティとの関係



清水 美恵、古株ひろみ
本田可奈子、川端 智子
玉川あゆみ
大垣女子短期大学
滋賀県立大学

背景 看護を志す学生は、看護職という将来の自分をイメージし、さまざまな動機を持って大学で教育を受けている。先行研究では、志望動機と職業的アイデンティティ、臨地実習と職業的アイデンティティの関係が報告されている。しかし、実習達成感を介した看護学生の入学の志望動機と看護職の職業的アイデンティティの関係を検証した研究はみられない。

目的 本研究では、看護学生の入学の志望動機が実習達成感を媒介して看護職の職業的アイデンティティに影響を及ぼすとした仮説モデルを検討した。

方法 対象者は、近畿圏の3つの看護系大学の4年生245名で、平成25年8月～平成26年2月に留置き法による自記式質問紙調査を行った。志望動機、実習達成感、看護職の職業的アイデンティティの関係について検討した。

結果 質問紙の回収数は174名(回収率71%)であった。欠損値を除いた154名を研究対象とした。各変数の相関分析では、「志望動機」と「実習達成感」、「実習達成感」と「看護職の職業的アイデンティティ」でそれぞれ有意な正の関係 ($r=.25, p<.01$; $r=.49, p<.01$) が示され、「志望動機」と「看護職の職業的アイデンティティ」との有意な関係は示されなかった。共分散構造分析では、志望動機が実習達成感を媒介することで看護職の職業的アイデンティティに影響を及ぼすというモデルが適合され、志望動機が実習達成感を媒介して、看護職の職業的アイデンティティを促進させることが示された。

結論 志望動機が高いと実習達成感が高められ、さらに、看護職の職業的アイデンティティの促進につながることを示された。看護職の職業的アイデンティティを促進させるためには、志望動機が高められる教育の支援と実習達成感が高まる教育の支援を強めていく必要性が示唆された。

キーワード 志望動機、実習達成感、職業的アイデンティティ

The Relationship between Motivation for Applying, Feeling of Achievement after Nursing Practice and Vocational Identity among Student Nurses

Yoshie Shimizu, Hiromi Kokabu, Kanako Honda, Tomoko Kawabata, Ayumi Tamagawa

Ogaki Women's College, The University of Shiga Prefecture

2014年9月30日受付、2015年1月9日受理

連絡先：清水 美恵

大垣女子短期大学

住 所：岐阜県大垣市西之川町1-109

e-mail : s-yoshie@ogaki-tandai.ac.jp

I. 緒 言

看護大学へ入学してきた学生は、「こんな看護師になりたい」「看護の勉強がしたい」など看護に対しての夢を膨らませ、進学を決意したと考える。学生が自己の意志で、目指す看護師像を抱いて入学してきている場合、自分の選択した進路を実現するために目的意識をもってのことから、看護学を学ぶという学習意欲は高いと考える。先行研究でも、看護師を目指して入学してきた学生は、自己学習力や授業態度の評価が高い¹⁾、看護職への志望が高い看護学生は自己教育力が高い²⁾といったことを明らかにしている。しかし、一方では、「大学に憧れていた」「とりあえず大学に入学したかった」「親に勧められた」など、さまざまな志望動機をもち、看護大学に入学してくることが明らかにされている³⁾⁴⁾⁵⁾。この

ような看護への志望動機がない看護学生は、学習への取り組みが有意に低い⁴⁾ことや、看護学生の志望動機が入学後の学習に影響を及ぼす²⁾といった報告がある。

以上のことから、看護学生の入学の志望動機は、必ずしも全てが看護志向ではないが、入学後の学習態度に影響を与えるということが推測される。よって、看護学生の志望動機は、入学後の看護基礎教育をより効果的なものにするための重要な要因と考える。

看護学生は、看護基礎教育の影響を受け、自己の看護観について考え、導き出し確立させていく。さらに、看護を価値あるものと認識し、自己の看護職としての職業的アイデンティティを形成していくと考える。この看護職の職業的アイデンティティは、看護職を自分のものとして受け止め、看護の役割や価値を自己のものとする看護実践の基盤である⁶⁾。従って、看護職者が看護の質を高めていくためには、看護職の職業的アイデンティティの確立が必要不可欠であると考えられる。しかし、先述で示したように、看護学生の志望動機は、看護大学へ入学してくる看護学生の全てに看護という職業に対する意識が高いとはいえない。看護に対しての意識が低い看護学生が、教育を受けていく過程で、看護に対する認識を変化させ、看護職の職業的アイデンティティを形成していきける教育支援が必要と考える。

看護職の職業的アイデンティティの形成が影響を受けやすい要因の一つに、臨地実習がある。臨地実習では、それまで学内で学んできた知識や技術を統合し、看護の対象を通し看護実践能力が養われると考えるからである。臨地実習との関係を検討した先行研究では、臨地実習により職業レディネスや自己効力感を高めた⁷⁾、臨地実習により社会的スキルが高まった⁸⁾ということが明らかにされ、また、臨地実習前の3年次生より臨地実習後の4年次生が看護観を深めた⁹⁾、臨地実習が看護職の職業的アイデンティティに影響を及ぼす¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾などの報告がある。このようなことから、臨地実習の達成感（以下実習達成感とする）が、看護学生の看護に対する認識を高め、看護職に対してのイメージを膨らませ、看護職の職

業的アイデンティティ形成の促進につながると考える。

すでに先行研究では、志望動機と看護職の職業的アイデンティティの関係¹⁵⁾、実習達成感と看護職の職業的アイデンティティの関係¹³⁾の検討の報告はある。しかし、志望動機と実習達成感の関係については報告されていない。そこで、本研究では、志望動機、実習達成感、看護職の職業的アイデンティティの関係（図1）について検討することを目的とする。

II. 研究方法

1. 対象

調査の対象は、近畿圏の3つの看護系大学の各論実習を全て終了した4年生245名で、留置き法による無記名の自記式質問紙調査を行った。

2. 調査期間：平成25年8月～平成26年2月

3. 調査内容

- 1) 基本属性：年齢、性別、社会経験の有無、編入生または学部生の有無
- 2) 志望動機尺度：竹本³⁾の看護系大学への入学の志望動機の構造を明らかにした尺度を使用した。この尺度は、「ゆとり」「看護志向」「大学の経済価値」「学力」「消極的動機」「他者の勧め」の6因子からなる尺度で、22項目で構成されていた（表1）。評定は「とてもそうだ」から「全くない」の5件法で求めた。得点が高いと志望動機が高いことを示す。
- 3) 実習達成感尺度：草野ら¹⁶⁾が、実習に対し学生個人の欲求が充足されず、やれたという実感や達成感がなかったという内容の項目で作成した質問紙30項目に対して、本研究では、「実習に対し、やれたという達成感」について測定をすることにした。そこで、項目の表現を実習達成感を表す肯定的な表現に修正し「実習達成感」として使用した。この尺度の項目構成は、「患者関係」「学習環境」「看護過程」「到達感」「指導者」「担当教員」の6因子から構成されていた（表2）。評定は、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の5件法で求めた。得点が高いほど実習達成感が高いことを示す。
- 4) 看護職の職業的アイデンティティ尺度：藤井ら¹⁷⁾のアイデンティティの感覚に焦点を当てた医療職用の職業的アイデンティティ尺度32項目のうち、遠藤ら¹⁸⁾が選んだ20項目で「看護職の選択と成長への自負」「看護職観の確立」「看護職として必要とされることへの自負」「社会貢献への志向」の4因子で構成されていた（表3）。「非常にあてはまる」から「全くあてはまらない」までの7件法で評定した。得点が高いほど、看護職の職業的アイデンティティ

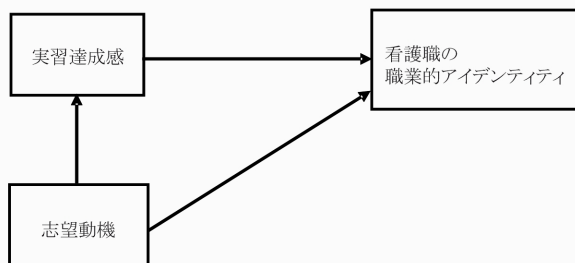


図1 志望動機、実習達成感、看護職の職業的アイデンティティの関係

が高いことを示す。

調査結果の分析は、統計ソフトSPSS Statistics base 22.0、Amos22.0を用いて、相関分析および共分散構造分析を行った。分析結果は、5%以下を有意水準とした。

4. 用語の定義

志望動機：看護学生の看護大学への入学を志望した動機

実習達成感：臨地実習に対して、看護学生個人の欲求が満たされ、やれたという達成感

看護職の職業的アイデンティティ：看護職を自分の職業として受け止め、価値あるものとする肯定的な感覚

5. 倫理的配慮

看護学科の責任者の了解を得た後、対象への研究の説明文、質問紙を郵送し本研究とは関係のない教員により学生に提示してもらい、対象学生の回答をもって調査協力の同意を得たものとした。また、収集したデータは匿名性、守秘義務を遵守し、A大学倫理審査委員会で承認を得た（第349号）のち実施した。

Ⅲ. 結果

表1. 志望動機尺度の因子別質問項目

ゆとり
1)一般教養の勉強がしたかった
2)大学生活を楽しみかった
3)大学でサークル活動やバイトがしたかった
4)大学に憧れていた
5)大学卒業後の選択肢が増えると思った
6)ゆとり勉強がしたかった
看護志向
7)専門的に看護学を学びたかった
8)看護職を目指そうと思った
9)多くの知識を身につけたかった
10)医療系の学部に進みたかった
大学の経済価値
11)大学卒のほうが給料が高いと思った
12)見栄のため
13)将来の就職に有利だと思った
学力
14)受け取りやすい大学・学部を選んだ
15)入学した大学・学部と自分の成績が一致した
16)進学校に在学していた
消極的動機
17)大学で勉強したかった
18)大学に行くのは当たり前だと思っていた
19)とりあえず大学に入学したかった
他者の勧め
20)家族や親類に看護師や医師など医療職がいた
21)親や親族に勧められた
22)高校までの教師に勧められた

質問紙の回収数174名（回収率71%）のうち、欠損値を除いた154名を分析対象者とした。

1. 基本属性

女性が147名、平均年齢21.9歳（SD=1.24）、社会人経験の有りが2名、編入生が21名、学部生が126名で、男性が7名、平均年齢24歳（SD=4.92）、社会人経験の有りが1名、編入生が5名、学部生が2名であった。

2. 志望動機、実習達成感、看護職の職業的アイデンティティの基本統計

志望動機、実習達成感、看護職の職業的アイデンティティの関係について、相関分析の結果を表4に示す。志望動機、実習達成感、看護職の職業的アイデンティティのそれぞれの尺度の項目の合計得点に対しての平均値を尺度の得点とした。相関係数は、「志望動機」と「実習達成感」、「実習達成感」と「看護職の職業的アイデンティティ」でそれぞれ有意な正の関係（ $r = .25, p < .01$ ； $r = .49, p < .01$ ）が示され、「志望動機」が高いと「実習

表2. 実習達成感尺度の因子別質問項目

患者関係
1)患者とコミュニケーションがとれた
2)患者の心理が理解できた
3)患者が自分を必要としてくれた
4)患者は実施したケアに満足してくれた
5)患者に施したケアは効果的であった
学習環境
6)病棟の人間関係はよかった
7)物品は充実していたので実習しやすかった
8)グループのチームワークは良かった
9)他に課題は多かつたが実習に専念できた
10)専任の指導者がいてくれたので安心して実習できた
看護過程
11)障害された過程を捉えることはできた
12)情報分析はできた
13)情報の分析を看護問題につなげることができた
14)分析の看護の必要性を計画につなげることができた
15)計画の実施、評価修正ができた
到達感
16)看護技術はたやすくできた
17)カンファレンスはうまくできた
18)実習目標への到達感があった
19)積極的、意欲的に取り組めた
20)失敗や反省は次に活かさせた
指導者
21)指導者は疑問に対し、理論的に答えてくれた
22)指導者が技術面で一緒にしてくれた
23)指導者は記録に対してコメントしてくれた
24)指導者からほめられた
25)失敗したとき、指導者はやさしく指導してくれた
担当教員
26)教員はできたところをほめてくれた
27)教員は分析などをわかりやすく説明してくれた
28)教員は患者関係で方向性を示してくれた
29)教員は気にかけて声をかけてくれた
30)教員は師長と実習調整してくれた

表 3. 看護職の職業的アイデンティティ尺度の因子別質問項目

<p>看護職の選択と成長への自負</p> <p>1)私は看護職になることが自分らしい生き方だと思う 2)私は看護職を生涯続けようと思う 3)私は看護職以外の仕事は考えられない 4)私は看護職を選択したことはよかったと思う 5)私は看護職を志す学生であると他人に誇りをもって言うことができる</p> <p>看護職観の確立</p> <p>6)私は看護職のあり方について自分なりの考えを持っている 7)自分がどんな看護師になりたいかはっきりしている 8)自分がどんな看護をしたいかはっきりしている 9)私は自分らしい看護をしていくことができると思う 10)将来自分らしい看護ができるようになると思う</p> <p>看護職として必要とされることへの自負</p> <p>11)私は看護職としてこれまでもこれからも多くの人に必要とされていると思う 12)私は看護師として医療チームの一員として今後ますます必要とされると思う 13)私は看護者として患者に必要とされていると思う 14)私は看護師として背景に独自の学問体系を持っている 15)私は看護職として医療の世界で不可欠な存在であると思っている</p> <p>社会貢献への志向</p> <p>16)私は看護職として医療の発展に貢献していきたい 17)私は看護職として看護の世界の発展に貢献していきたい 18)私は看護職として社会に貢献していきたい 19)私は看護職として患者に貢献していきたい 20)私は看護職として患者の願いに応えたいと思っている</p>
--

達成感」が高められ、「実習達成感」が高いと「看護職の職業的アイデンティティ」が高かった。しかし、「志望動機」と「看護職の職業的アイデンティティ」との相関関係は示されなかった。

3. 志望動機、実習達成感と看護職の職業的アイデンティティの関係を示すモデルの検討

志望動機、実習達成感と看護職の職業的アイデンティティの関係モデルに対して共分散構造分析を行った。その結果、志望動機から実習達成感を介した看護職の職業的アイデンティティへの効果を示し、志望動機から看護職の職業的アイデンティティの直接の影響がないというモデルが示された (図 2)。しかし、実習達成感に志

望動機が影響する説明率は 6%であった。モデルの各適合度の指標は、 $\chi^2 (.192) = .661$ (ns)、GFI=.999、AGFI=.995、CFI=1.000、RMSEA=.000の値が得られた。 χ^2 は有意な値を示さず、GFIとAGFIは共に 1に近い値を示した。さらにRMSEAが0.1以下の値であった。

IV. 考察

本研究では、志望動機、実習達成感と看護職の職業的アイデンティティの関係について相関係数で分析を行った。その結果、志望動機と実習達成感、実習達成感と看護職の職業的アイデンティティに関係が認められた。志望動機と実習達成感の関係については、看護大学へ入学してくる看護学生の志望動機が高いと、実習達成感が高められる傾向を示した。従来の研究では報告されていないが、志望動機と実習達成感が弱い相関関係であったことから、志望動機は、実習達成感に対してそれほど影響を与えていなかったと考えられた。

次に、実習達成感と看護職の職業的アイデンティティの関係の検討について、実習達成感は看護職の職業的ア

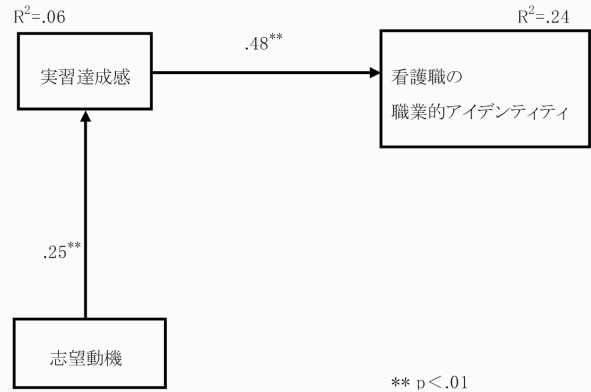


図 2 実習達成感を介した志望動機と看護職の職業的アイデンティティの関係 (n=154)

表 4 志望動機、実習達成感、看護職の職業的アイデンティティの相関係数 (n=154)

	志望動機	実習達成感	看護職の職業的アイデンティティ	平均	SD	α
志望動機	-			3.59	.48	.76
実習達成感	.25**	-		3.59	.38	.90
看護職の職業的アイデンティティ	.15	.49***	-	4.88	.94	.95

*** p<.001,** p<.01

アイデンティティと関連があることが認められた。これは、辻田ら¹³⁾の実習達成感と看護職の職業的アイデンティティの関係に類似していた。実習達成感と看護職の職業的アイデンティティの正の関係から、実習達成感が看護職の職業的アイデンティティに効果的な影響を及ぼしたと考えられた。先行研究で、志望動機と看護職の職業的アイデンティティの関係¹⁵⁾の報告がある。しかし、本研究では、看護学生の志望動機が、看護職の職業的アイデンティティへの影響要因ではなかったと考えられた。

さらに、志望動機、実習達成感と看護職の職業的アイデンティティの関係を示すモデルを共分散構造分析で検討した。その結果、志望動機から実習達成感を介した看護職の職業的アイデンティティへの間接効果のモデルが示され、志望動機と看護職の職業的アイデンティティの直接効果は支持されなかった。つまり、看護職の職業的アイデンティティは、志望動機から強い影響は受けていなかったと考えられた。看護職に対して職業的モデルをもつ学生は看護職の職業的アイデンティティが高く¹⁰⁾、また、自己教育力と看護職の職業的アイデンティティの関係²⁰⁾は強いことが報告されている。よって、看護職の職業的アイデンティティに影響を及ぼしたのは、志望動機よりも、看護学生の学習環境や看護学生自身の学習意欲などであったと考えられた。

本研究で明らかとなった、志望動機から実習達成感を介した看護職の職業的アイデンティティへの効果を示すモデルの各適合度指標は、良好な値を示した。以上より、志望動機は実習達成感に影響を与え、さらに、実習達成感も看護職の職業的アイデンティティに対して影響力を持つことが明らかとなった。このことから、志望動機と看護職の職業的アイデンティティの関係は、実習達成感を媒介することによって説明できると考えられた。

実習達成感への影響に対して、志望動機が支持されたことは、看護を学びたい、看護職に就きたいという志望動機が実習達成感に影響したと考えられた。看護学生は、さまざまな志望動機をもち看護大学へ入学する³⁾⁴⁾⁵⁾。しかし、動機はさまざまであっても、入学前から看護を学ぶ意欲はもっていたことが考えられた。つまり、入学後も、その看護を学ぶ意欲が、臨地実習において効果を上げた可能性が考えられた。しかし、実習達成感への影響に対する説明率が6%であったことは、志望動機以外の仲間や教員、学内での講義、看護学生の生活環境などさまざまな要因が実習達成感に影響を与えたと考えられた。よって、実習達成感を強めるための教育には、看護学生の入学前からの志望動機を大切に、入学後においても、学習意欲が高められる教育支援をしていくことが重要であると考えられた。

実習達成感が看護職の職業的アイデンティティに影響を及ぼした。これは、臨地実習において、患者や家族を

通した援助の体験から、看護の援助者としてのあり方を学ぶ過程で、看護職に対する自信や成長、看護職観の確立につながったものと考えられた。看護職の職業的アイデンティティを測定した研究では、看護職の職業的アイデンティティは1年次が最も高く、2年次で大きく低下し、3年次で再び高くなる²¹⁾ことが報告されている。本研究の分析対象は、各論実習を終了した4年生の看護学生であった。このことから、4年間の過程の中で、看護に対する興味や看護職の醍醐味が蓄積されたため、看護職に対する肯定的イメージが形成され、看護職の職業的アイデンティティの効果へとつながったと考えられた。

しかし、看護学生は臨地実習で、対人的、物理的、組織的な実習環境からさまざまなストレスを受けている²²⁾。患者や指導者、教員などとの人間関係や、看護過程の学習などの要因が実習達成感に影響を与えやすい¹⁶⁾²³⁾。そのため、看護学生が看護のすばらしさを実感し、看護職を自己のものへと確立できる教育支援が必要である。

V. 本研究の限界と今後の課題

本研究の限界は、まず、志望動機と看護職の職業的アイデンティティとの関係が捉えられなかったことである。理由として、各論実習を終えた4年生に入学時の振り返りをさせるといった想起法に基づく質問紙調査のため、変数にバイアスが生じた可能性が推察された。次に、質問紙は無記名で、本研究とは関係のない教員により学生に提示してもらったが、学生にとっては直接教育を受けている教員であることから、結果にバイアスがかかった可能性を考慮しておく必要がある。

さらに、本研究で使用した竹本²⁾の志望動機尺度は、「ゆとり」「看護志向」「大学の経済価値」「学力」「消極的動機」「他者の勧め」の6因子で構成されていた。看護志向以外の因子を含めた合計得点を志望動機の高さとした評定方法には限界がある。

今後、縦断的調査や調査対象者、調査時期などを考慮し、さらに、実習達成感を規定する要因及び看護職の職業的アイデンティティを規定する要因について検討していくことが課題である。

VI. 結論

看護学生の入学の志望動機が実習達成感を介することで看護職の職業的アイデンティティ形成が促進された。さらに、看護職の職業的アイデンティティは、志望動機よりも実習達成感の影響のほうが強いことが示された。

謝 辞

本研究を行うにあたり、調査に快くご協力してくださいました看護大学の教員の皆様ならびに学生の皆様に感謝いたします。

文 献

- 1) 池上真由美, 中桐佐智子, 岡本陽子: 看護学生の志望動機や満足感が学習態度に及ぼす影響, *インターナショナルNursing Care Research*, 11(1), 143-153, 2012.
- 2) 榎本朋子, 田邊美津子: 看護学生の入学動機と自己教育力との関連, *川崎医療短期大学紀要*, 32, 7-13, 2012.
- 3) 竹本由香里: 看護学生の看護系大学への進学志望動機の検討, *宮城大学看護学部紀要*, 11 (1), 13-20, 2008.
- 4) 石井俊行, 坪井敬子: 看護系大学1期生の志望動機と看護に関する捉え方, *インターナショナルNursing Care Research*, 8 (1), 2009.
- 5) 安藤正子, 神山とき江, 有井良江他: 看護専門学校における学生の実態調査—看護を志した動機に焦点をあてて—, *看護教育*, 第29回, 24-26, 1998.
- 6) グレック美鈴: 看護における1重要概念としての看護婦の職業的アイデンティティ, *Quality Nursing* 6 (10), 53-58, 2000.
- 7) 飯島佐知子, 賀沢弥貴, 平井さよ子: 自己効力感および職業レディネスによる看護大学生の看護管理実習の効果の評価に関する研究, *愛知県立看護大学紀要*, 14, 9-18, 2008.
- 8) 石光美美子, 古谷剛, 林美奈子: 看護大学生の半年間にわたる臨地実習前後の社会的スキルの変化, *目白大学健康科学研究*, 5, 61-66, 2012.
- 9) 安藤誌乃, 加世田有季, 中越登子他: 臨地実習前後における看護観の変化—看護学生の患者の捉え方に対する考え方の比較—, *バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌*, 10(2), 1-7, 2008.
- 10) マイマイティ パリダ, 紙屋克子, 本多陽子他: 実習直前指導が実習への姿勢と実習後の職業的アイデンティティに及ぼす影響, *茨城県立医療大学紀要*, 11, 55-64, 2006.
- 11) マイマイティ パリダ, 落合幸子, 池田幸恭他: 職業的アイデンティティを高める実習直前指導が看護学実習での学びに及ぼす効果, *茨城県立医療大学紀要*, 14, 77-86, 2009.
- 12) 古宇田美美, 大黒理恵, 佐藤初美他: 早期体験実習が看護学生の職業的アイデンティティ形成に及ぼす影響, *お茶の水看護学雑誌*, 4 (1), 15-21, 2009.
- 13) 辻田大介, 入山茂美, 高橋美和: 看護教育研究 看護学生の実習達成感と職業的アイデンティティの関連, *看護教育*, 52 (1), 42-46, 2011.
- 14) 上田伊佐子, 近藤春江, 山本美佐子他: 5年一貫課程の看護学生の「職業的アイデンティティ」の経年的変化と臨地実習が与える影響, *看護教育*, 51 (8), 702-707, 2010.
- 15) 河村彰美, 中川雅子, 藤田淳子他: 看護学生における看護婦のアイデンティティ形成と志望理由・学習進度との関係, *京都府立医科大学医療短期大学部紀要*, 10 (1), 91-99, 2000.
- 16) 草野ひとみ, 吉川千鶴子, 佐久間良子他: 充実しなかったと学生が判断した学習の影響要因—2年次・3年次の学生間での比較—, *看護教育*, 第31回, 164-166, 2000.
- 17) 藤井恭子, 野々村典子, 鈴木純恵他: 医療系学生における職業的アイデンティティの分析, *茨城県立医療大学紀要*, 7, 131-142, 2002.
- 18) 遠藤恭子, 米澤弘恵, 石綿啓子他: 基礎看護学実習IIが看護学生の思いやり行動と看護職アイデンティティに及ぼす影響, *獨協医科大学看護学部紀要*, 4, 19-31, 2010.
- 19) 落合幸子, 本多陽子, 藤井恭子他: 医療系学生における職業的アイデンティティの形成と教育—職業的モデルがいると職業的アイデンティティと自己効力感は高まるか—, *日本教育心理学会*, 47, 132, 2005.
- 20) 原厚子, 中沢みな子: 本校学生の自己教育力の現状と看護職アイデンティティの関係, *日本看護学会論文集 看護教育*, 29, 153-155, 1998.
- 21) 波多野梗子, 小野寺杜紀: 看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化, *日本看護研究学会雑誌*, 16 (4), 21-28, 1993.
- 22) 奥百合子, 常田佳子, 小池敦: 看護学生の臨地実習におけるストレス, *医学と生物学*, 155 (10), 705-712, 2011.
- 23) 原田秀子: 臨地実習における看護学生の達成感に影響する要因の検討, *山口県立大学部紀要*, 8, 93-98, 2004.

(Summary)

The Relationship between Motivation for Applying, Feeling of Achievement after Nursing Practice and Vocational Identity among Student Nurses

Background Students in nursing colleges have various individual motivations but they share the same career prospects in nursing. Previous studies have reported the relationship between motivations for applying and vocational identities as well as between clinical practices and vocational identities. However, there has been no study that verifies the relationship between the students' motivations for applying for nursing colleges and their vocational identities in nursing, which is formed through the feeling of achievement after nursing practices.

Objective The study investigated a hypothetical model that assumed the motivations for applying for nursing colleges would affect vocational identities via the feelings of achievement after nursing practices.

Method A self-completed questionnaire (delivery and collection method) was conducted for 245 fourth-year nursing students in 3 nursing colleges in Kinki area from August 2013 to February 2014. The relationships between the motivations for applying, the feelings of achievement after nursing practices and the vocational identities were examined.

Results 174 responses were returned (collection rate of 71%). Among which 154 complete responses, without missing information, were used in the study. While the correlation analysis of

variables showed significant and positive correlations ($r=.25, p<.01$; $r=.49, p<.01$) between 'motivation for applying' and 'feeling of achievement after nursing practice' as well as 'feeling of achievement after nursing practice' and 'vocational identity', no significant correlation was found between 'motivation for applying' and 'vocational identity'. A covariance structure analysis was also carried out on the hypothetical model that assumed the motivations for applying for nursing colleges would affect vocational identities via the feelings of achievement after nursing practices. The result showed the model's suitability, demonstrating that motivations for applying for nursing colleges would enhance vocational identities via the feelings of achievement after nursing practices.

Conclusions The study demonstrated that higher motivations for applying would strengthen the feelings of achievement after nursing practices, and further, enhance vocational identities in nursing. It suggested the needs for strengthening the educational supports that would heighten the students' initial motivations as well as the feelings of achievement after nursing practices in order to enhance vocational identities in nursing.

Key Words Motivation for Applying Feeling of Achievement after Nursing Practice Vocational Identity